



## シナジー効果を生む

### チーム力の伸ばし方 ②

※356号では「チームビルディング」についてご紹介しています。



野原 秀樹 氏

愛知県名古屋市出身。18歳でジャズダンスをはじめ、19歳で上京してバレエを学ぶ。日本バレエ協会公演、松山バレエ団など多数の作品に出演する。その後バレエをはじめ、アート、エンターテインメントの普及活動に取り組む。2008年に株式会社MANY ABILITIESを設立。舞台人としての経験をもとに、インプロ（即興）や演劇などのエッセンスを活かした体感型のコミュニケーション能力向上プログラムを提供。多くの企業、学校、病院などで研修に採用されている。

株式会社 MANY ABILITIES <http://many-abilities.com/>

## チーム力を高めるコミュニケーション



### ● チームに不可欠なコミュニケーション

ビジネスにおいて、目標を達成するためには、いかにチーム力を高めるかが重要です。チーム力向上に有効なのは、「チームビルディング」であると前回述べました。メンバーそれぞれが、自分の役割、立場を自覚したうえで、目標に向かって個々が力を発揮し、チームとして一丸となってゴールに突き進んでいくことが理想です。

しかし一人ひとりがどんなに能力を発揮したとしても、互いにつながりがなければ、シナジー効果は生み出されません。チームにとって、各メンバーが互いに良好なコミュニケーションがとれてこそ、チーム力という一致団結した力が発揮できるのです。

ここではチーム力を高めるために必要な、コミュニケーションについて考えていきたいと思います。

### ● コミュニケーションの構造

コミュニケーションは、「伝える」「受け止める」「対応する」ことで成り立ちます。伝えるためのもっとも一般的な方法は言葉ですが、伝える方法はそれだけではありません。非言語、すなわち言葉以外の伝える手段には、次のようなものがあります。

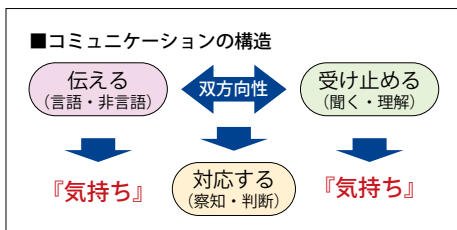
- ・声や表情、ボディランゲージなどの表現力
- ・立ち居振る舞い(姿勢・歩き方など)
- ・アイコンタクトや笑顔
- ・頷き・あいづち など

たとえば「ありがとう」という感謝の言葉でも、そこに非言語のプラスの要素を加えられるか、加えられないかで、相手に伝わるときには大きな差が出てしまいます。伝える側は、常に非言語の表現をプラスして言葉に乗せることを意識すると、良好なコミュニケーションを築きやすくなります。

それに対して受け止める側にも、相手が話しやすくするための、コツがあります。それは

- ・話をさせる状態をつくる
- ・積極的に様子をうかがう
- ・非言語情報を意識する
- ・話を遮らない
- ・先入観で聞かない
- ・頷き・あいづち・確認
- ・沈黙の共有 など

相手に伝えたい気持ちと、相手の伝えたい思いを受け止めようとする気持ち。互いの気持ちのキャッチボールによって、コミュニケーションの構造が築き上げられていくのです。



### ● 構造を機能させるスキル

伝える側と受け止める側の、双方向性によってコミュニケーションの構造は成り立っていますが、この構造を機能させていくためには、求められるスキルがあります。

たとえば、わかりやすく伝えるための論理力、豊かな表現力、相手の言葉を受け止めるための傾聴力、観察力、会話をつなげる質問力や想像力、対応するための察知力、判断力、さらに発想力、批判的思考力、などがその一例です。

これは、私たちが良好なコミュニケーションを築いていくうえで、大切な能力ともいうことができます。こうしたスキルを高めることによって、互いの関係性はより深まり、より良いコミュニケーションが成り立っていきます。

### ● 構造に影響を与えている要素

また、コミュニケーションの構造に大きな影響を与える要素として、「生き方」「価値観」「意識」などがあります。コミュニケーションがうまくいかないと感じるときは、まずは意識の変化に取り組んでください。生き方や価値観は、これまで生きてきた経験や習慣によって形作られているものなので、なかなか変えることの難しいものです。それに対して、意識は心の持ちようによって変えやすいものといえます。

積極的に関わろうとする意識、分かり合おうとする意識など、常に意識を明確に捉えていくことで、状況を変化させることは可能です。たとえ生き方や価値観に違いがあっても、意識を変えることで、人とのつながりができてくる。それこそがコミュニケーションの力となります。

チームにおけるコミュニケーションの重要性は、情報の共有や意思統一はもちろんですが、コミュニケーションのとれた良い雰囲気のチームこそ、個々の意識も高くなり、協力し合いながら共通の目標に向かっていけるという効果をもたらすことができます。



実践も交え、  
分かりやすく語る  
野原氏



★次回358号では「個性とチーム力を引き出す体感型ワーク」の実践編です。

HUMAN HUMAN プラスはウェブサイトへ

eふあみり もあわせてご覧ください!  
<http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/>



野原氏が、力を入れている取り組み「奏志相愛」が目指しているものとは?